

2017 年度輔仁大学日本語文学科・台湾日本語文学会国際シンポジウム —「社会的役割を果たす日本語文学研究の推進」— プログラム(案)

日 時：2017 年 12 月 16 日(土曜日) 場 所：輔仁大学国壘楼 2 階国際会議ホール

08:30~08:50	受 付
08:50~09:10	開 会 式 (国壘楼 2 階 MD227 国際会議ホール) 頼 振南 (輔仁大学外国語学部長・台湾日本語文学会理事長) (公益財団法人) 日本台湾交流協会代表者 奥村 訓代 (日本比較文化学会会長・日本高知大学教授)
09:10~10:00	基 調 講 演 1 (国壘楼 2 階 MD227 国際会議ホール) 司 会：落合 由治 (淡江大学教授) 講 師：吉岡 洋 (日本京都大学教授) トピック：「役立つ」とはいかなることか? —芸術研究の社会的役割をめぐって—
10:00~10:10	ティ ー ・ ブ レ イ ク
10:10~11:00	基 調 講 演 2 (国壘楼 2 階 MD227 国際会議ホール) 司 会：曾 秋桂 (台湾日語教育学会理事長・淡江大学日本語学科主任) 講 師：藤濤 文子 (日本神戸大学教授) トピック：グローバル時代における翻訳の役割と再コンテキスト化
11:00~11:50	基 調 講 演 3 (国壘楼 2 階 MD227 国際会議ホール) 司 会：陳 明姿 (台湾大学教授) 講 師：横溝 博 (日本東北大学准教授) トピック：日本文学という新しい試み—日本研究の理想と課題
11:50~12:20	台湾日本語文学会 / 昭和文学会 (日本) 姉妹学会締結式 台湾日本語文学会 会員大会
12:20~13:20	昼 食

午後の部

		第一会場	第二会場(B)	第三会場	第四会場
	13:20 13:25	国壘楼 MD215 教室	国壘楼 MD214 教室	国壘楼 MD213 教室	国壘楼 MD212 教室
		第一セッション	第二セッション	第三セッション	第四セッション
		座 長：中村 祥子 (輔仁大学副教授)	座 長：張 蓉蓓 (輔仁大学助理教授)	座 長：黄 英哲 (台中科技大学副教授)	座 長：林 慧君 (台湾大学教授)
13:20 14:40	13:25 13:45	発表者：齋藤 正志 (中國文化大学副教授) 『大和物語』第 27 段にお ける「社会との関係」 —社会的役割を持つ日本 古典文学研究—	発表者：沈 美雪 (中国語文化大学副教授) 台湾における日本ロボッ トアニメの受容と現在 —『重甲機神 Baryon』か ら見る台湾劇場版アニメ 制作の将来性—	発表者：工藤 節子 (東海大学助理教授) 台日プロジェクト型交流 におけるリーダーの経験 と成長	発表者：林 寄雯 (淡江大学副教授) 否定表現の中国語訳に関 する一考察
	13:45 14:05	発表者：簡 中昊 (屏東大学助理教授) 文学における台湾野球の 八百長問題：日本と台湾の テキストを中心に	発表者：横路 明夫 (輔仁大学副教授) ロボットと人間の間で —『攻殻機動隊』の「タチ コマ」を論じる—	発表者：朴 孝庚 (韓国漢陽サイバー大学 助教授) 韓国日本語教育における サイバー大学の現状と課 題—遠隔作文授業を中心 に—	発表者：吳 如惠 (銘傳大学副教授) 日本語学習者の生教材活 用による聴解練習におけ る字幕種類の選択

14:05 14:25				発表者：金 孝卿、 トンプソン 美恵子、 羅 曉勤、張 瑜珊 (日本大阪大学准教授、日 本早稲田大学准教授、銘傳 大学副教授、東海大学助理 教授) 対話型教師研修における 「ティーチング・ポートフ ォリオ」の可能性	発表者：姜 美善 (韓国漢陽女子大学講師) 主体的学びを支援するた めの実践を考える
14:25 14:40	質疑応答	質疑応答	質疑応答	質疑応答	質疑応答

14:40~15:10	ティー・ブレイク	ポスター発表 二回目
-------------	----------	------------

	15:10 15:15	第一会場	第二会場(B)	第三会場	第四会場
		国璽楼 MD215 教室 第五セッション	国璽楼 MD214 教室 第六セッション	国璽楼 MD213 教室 第七セッション	国璽楼 MD212 教室 第八セッション
		座長：范 淑文 (台湾大学教授)	座長：横路 啓子 (輔仁大学教授)	座長：楊 錦昌 (輔仁大学教授)	座長：蘇 文郎 (政治大学教授)
	15:15 15:35	発表者：山下 文 (淡江大学助理教授) 現代日本文化に見る僧正 遍昭 —小学校検定教科書・学 習参考書・マンガを通して—	発表者：武田 珂代子 (日本立教大学教授) 機械翻訳・自動通訳の開発 と翻訳通訳教育	発表者：林 淑璋 (元智大学助理教授) 日本語昔話・絵本を用いた 多読実践による初級日本 語文法の学習と使用—接 続助詞の「と」を中心に—	発表者：高井 岩生 (日本九州大学専門研究員) 名詞に対する意味的制約 と動詞の特性
15:10 16:30	15:35 15:55	発表者：胡 文海 (日本関西大学博士後期 課程) 芭蕉「蚤、虱」像の変遷	発表者：金 孝順 (韓国高麗大学副教授) 1920-30年代における「人 造人間」の植民地的受容に 関する研究	発表者：鄭 家瑜 (政治大学副教授) 台湾社会との連携を目指 す「日本古典文学」の授 業の試み—政治大学日本 語文学科の「日本名著選 読」授業の実践報告	発表者：住田 哲郎 (日本京都精華大学講師) アイロニーが引き起こす ラレル文
	15:55 16:15	発表者：劉 怡臻 (日本明治大学博士後期 課程) 台湾における啄木受容史 の一面—銀鈴会を例に		発表者：陳 文瑤 (大葉大学副教授) アクティブ・ラーニングを 取り入れた「日本文学史」 の授業	発表者：龔 柏榮 (日本名古屋大学博士後 期課程) 現代日本語における可能 性を表す表現の研究 —「ないとは/とも限らな い」の使用文脈に関する一 考察—
	16:15 16:30	質疑応答	質疑応答	質疑応答	質疑応答

16:30~16:40	ティー・ブレイク
-------------	----------

		第一会場	第二会場(B)	第三会場	第四会場
16:40 16:45		国璽楼 MD215 教室	国璽楼 MD214 教室	国璽楼 MD213 教室	国璽楼 MD212 教室
		第九セッション	第十セッション	第十一セッション	第十二セッション
		座長：林 雪星 (東呉大学教授)	座長：黄 翠娥 (輔仁大学教授)	座長：頼 錦雀 (東呉大学教授)	座長：王 佑心 (銘伝大学副教授)
16:40 17:35	16:45 17:05	発表者：廖 秀娟 (元智大学副教授) 太宰治「律子と貞子」論—雑誌『若草』を手がかりとして—	発表者：小針 浩樹 (輔仁大学副教授) コミュニケーションの諸形態とロボットの可能性—ロボットは自分の声を聴いているか—	発表者：奥村 訓代 (日本高知大学教授) 「やさしい日本語」効果について	発表者：梶原 雄 (日本同志社大学講師) 外国人観光客から見た天ヶ瀬温泉の魅力と課題—韓国のブログをもとに—
	17:05 17:25	発表者：蔡 佩青 (日本静岡英和学院大学准教授) 春樹文学の古典摂取と消化—『独立器官』論—	発表者：陳 國偉 (中興大学副教授) モンスターの進撃：機械の身体・人種の突然変異と台湾のSF ミステリー小説	発表者：公文 素子 (日本高知大学講師) 日本人と外国人の「緊急地震速報」の認知度に関する考察—	発表者：劉 玲芳 (日本大阪大学博士後期課程) 日本対中国の貿易事情と中国人の身装文化—1900-10年代を中心に—
	17:25 17:35	質疑応答	質疑応答	質疑応答	質疑応答

17:40~17:50	閉会式 横路 啓子 (輔仁大学日本語文学科主任)	(国璽楼2階 MD227 国際会議ホール)
-------------	-----------------------------	-----------------------

17:50~20:00	懇親会	(麗京棧酒店 Hotel Intrendy)
-------------	-----	------------------------

ポスター発表 一回目 11:50~12:20 二回目 14:40~15:10 (国璽楼2階広場)		
--	--	--

発表者①：黄 馨儀 (中国文化大学助理教授)	テーマ：「テレビドラマと日本社会」日本語学科と社会とのつながりを考えた授業の実践報告
発表者②：藍 語嫣 (銘伝大学大学院生)	テーマ：アニメを学習題材にした聴解学習ストラテジーの基礎調査—応用日本語学科学習者を中心に—
発表者③：林 昌勇、呂 惠莉 (銘伝大学大学院生、副教授)	テーマ：明治文学作品における一人称の使用実態—『坊っちゃん』と『雁』を中心に—
発表者④：徐 孟鈴 (銘伝大学副教授)	テーマ：スピーチを教室活動として指導する試み—自国文化を意識させるテーマで
発表者⑤：董 航 (日本お茶の水女子大学博士後期課程)	テーマ：中江藤樹の女子教育思想—「翁問答」と「鑑草」との一貫性を中心に—
発表者⑥：陳 陸琴 (日本九州大学大学院生)	テーマ：「P 是 P」の意味と構造—「P ことは P」との対照研究
発表者⑦：翟 勇 (日本静岡大学講師)	テーマ：英語母語話者日本語学習者の日本語空主語文処理

主催	台湾日本語学会・輔仁大学外国語学部・輔仁大学日本語文学科
共催	日本京都大学こころの未来研究センター
協賛	科技部・教育部・輔仁大学研究発展処・独立行政法人国際交流基金 (The Japan Foundation)・韓国日本語学会・日本比較文化学会・致良出版社・大新書局・尚昂文化事業國際有限公司
後援	公益財団法人日本台湾交流協会

基調講演：50分 論文発表：20分・質疑応答：5分
